



碧南ロータリークラブ週報

第2980回例会 令和3年6月9日(水)

- 会長 岡本 明弘
- 幹事 鈴木 泰博
- 会場監督(SAA) 服部 弘史

2020-2021 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100

- 会報委員 林 俊行・石川鋼勇・牧野勝俊



ロータリーは機会の扉を開く

●本日のお弁当

小伴天

会 長 挨拶

皆さん、こんにちは。愛知県の新規感染者数が1段階下がった「厳重警戒」になりましたけれども、本日も連続5回目のZoom例会をさせていただきます。もうぼちぼち人恋しくなってきました、来週の最終例会で会員の皆様とお会いできることを楽しみにしております。よろしくお願ひ致します。また、2020-



岡本明弘会長

21年度の碧南RCの例会も今日を入れて2回になりました。いよいよ、本年度は着陸態勢に入ります。今日から車輪を降ろしまして、新美次年度が待つ着陸地点まで高度を下げたいと思います。あと僅かですが、会員の皆様、ご協力をお願い致します。

最初に1つ報告ですけれども、先週の6月3日(木)に鈴木幹事と碧南市役所に出向き、本年度の事業費見直しによる碧南市への寄贈を行いました。後程、鈴木幹事から報告があると思いますけれども、碧南RCが地域社会に奉仕しているという姿が一般の市民の方にわかっていただけたのではないかなと思います。ロータリークラブの公共イメージ向上、そして、碧南RCの公共イメージ向上に繋がったかと思ひます。

さて、本日は職場例会ですので、私の職業を通しての奉仕の話させていただきます。私共の企業グループは、限りある資源である水を守り繋ぐ水道事業を通して、社会に奉仕しております。地球上にある水の97.5%は塩水で、淡水は2.5%しかありません。さらに淡水の7割以上は氷河・永久凍土の中に閉じ込められておりますので、実際に人類が利用できる淡水源は僅か0.01%であります。このように水は大変貴重なものでありますけれども、水道水が直接飲める国は世界で15か国しかありません。日本の近代水道は横浜で明治20年(1887年)に鉄管を使用した水道が通水したのが始まりです。近代水道が求められた理由は毎年発生するコレラの流行でありました。そのため、水道を管轄しているのは厚生労働省になります。現

在の管路延長は約 60 万 km に及んでおります。水道管は耐用年数が 40 年ですので、現在の国内基幹管路は 100 年持つと言われております。次世代へ管路を守り繋げることで、社会に貢献し続けているというふうに思っております。今後の水道事業の課題は人口減少社会の中での水道事業であります。そうなりますと、管路の老朽化、水道施設の耐震化の遅れ、職員数の減少が問題になります。この水道事業を取り巻く環境を踏まえて、広域連携の推進、水道施設の適切な維持管理・更新の促進が検討されております。そして、水道法改正により水道ビジョンの中で「安全、強靱、持続」の方向に進んでおります。このような形で私も職業を通して、社会に奉仕しているんじゃないかなと思っております。ロータリーも会員の減少を避けることができないという問題があります。先週、お話ししました通り、変わっていく道を模索しております。水道事業も人口減少によって変わらなければならないという道を進んでおります。共通点があることをお伝えしまして、本日の挨拶と致します。

本日の職場例会、よろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第 12 回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ 次回の例会は 6 月 16 日（水）の 17 時 30 分から碧南商工会議所大ホールにて最終例会を行います。最終例会ですので、多くの方に参加していただきたいと考えております。よろしくお願い致します。



鈴木泰博幹事

委 員 会 報 告

<ニコボックス>

- | | | |
|--------|---|--|
| 岡本 明弘君 | } | 碧南ロータリークラブから 6 月 3 日、碧南市に足踏み式消毒スタンド 38 台を寄付させていただきました。市民の方々に活用していただけることを切望しています。 |
| 藤関 孝典君 | | |
| 鈴木 泰博君 | | |
| 平岩 辰之君 | | 石川鑄造株式会社石川社長様には、卓話による職場訪問をお受け頂き、ありがとうございます。 |
| 竹中 誠君 | | 公益財団法人オイスカ 全国誌 6 月号「会員の広場」に掲載されました。 |
| 石川 綱逸君 | | 本日卓話をさせていただきます。よろしくお願い致します。 |

「おもいのフライパン誕生秘話 “調理器具の革命を起こす”

会員 石川鋼逸君（石川鑄造㈱ 代表取締役社長）



石川鋼逸君

只今、平岩辰之様より過言なるご紹介をいただき、誠にありがとうございます。コロナ禍ですので、このような形で行わせていただきますが、お時間がある方は弊社にお越しいただければ、ご案内をさせていただきますので、よろしくお願い致します。

先程、ご紹介をいただきましたように 2018 年 12 月に「おもいのフライパン」という調理器具の一般発売をさせていただきました。そこに至るまでの開発秘話だとか、今後の展望だとか、鑄物とはどういうものかということをお話しながら、お話しさせていただきたいなというふうに思います。よろしくお願い致します。

まず、鑄物とは何なのか、「おもいのフライパン」とは何なのかというものを 2018 年 4 月に日本テレビで放映をさせていただいた番組の元データがありますので、ご覧ください。

ありがとうございました。それでは、簡単に自己紹介をさせていただきます。石川鑄造株式会社は碧南市中松町にあります。創業が昭和 13 年です。私が 4 代目ということで、代表取締役社長を務めさせていただいております。平成 16 年 12 月に社長に就任をして、十数年経っております。「おもいのフライパン」もそうなんですけれども、社長に就任する前からある程度の何かをしないといけないなということで、プロジェクトを立ち上げて、皆で作上げたものだと思っております。会社に入る前は碧南高校の保健体育の教師をしながら、野球部の監督をさせていただいたという経験もあります。趣味はゴルフで、最近は自社ブランドの構築と事業の開拓に奮闘中ということではございますが、コロナでなかなか外に出られなくて、毎日家でお酒を飲むような生活をしております。

弊社の歴史ですが、昭和 13 年 6 月に曾祖父の石川市郎が個人資本により創業ということで、父親に話を聞くとところによりますと、碧南 RC の会員であります平岩統一郎さん、平岩辰之さんのおじいさんとの絡みがありまして、色々な形でご支援をいただきながら、今もお仕事をいただいております。昭和 25 年 1 月に法人にさせていただき、昭和 37 年 12 月に祖父の石川金三が代表取締役になりました。そして、昭和 58 年 11 月に父の石川春久が代表取締役になりました。石川鑄造と並んで石川ダイカスト工業を経営しておりましたが、父が今後は製造業以外に違ったビジネスも必要ではないかということで、思い切って石川ダイカスト工業を閉鎖しました。そして、会員の石川鋼勇君に代表取締役社長をお願いしまして、中日カンキョウサービスということで、ビルメンテナンスや清掃業も関連会社としてやらせていただいております。私が野球好きということで、平成 12 年 3 月に軟式野球部を会社に発足させていただいております。平成 16 年 12 月に私が代表取締役社長になり、その後、ISO9001 を取得、中国研修生の採用をしました。平成 29 年 12 月に自社ブランドの「おもいのフライパン」の販売を開始し、その後、新社屋を建てながら、設

備を年々更新しているという状況でございます。そして、昨年 6 月から新たなビジネスとして、お肉のサブスクというものも始めさせていただき、昨年 8 月にはクラウドファンディングで行いました Makuake から 2020 年のアワードを受賞することができました。そして、昨年 11 月に「はばたく中小企業・小規模事業者 300 社」ということで、経済産業省からも選定をいただいております。

ここからは「おもいのフライパン」の開発、どうやってこのような発想が生まれたかというお話をさせていただきたいと思います。まず、「おもいのフライパン」というネーミングですが、私たちは思いを込めて製品を作りたい、一生使えるであろうフライパンを思いを持って買っていた方に使っていただきたい、重量が重いということで、キーワードとして「おもい」がたくさん出てきましたので、この名前にしました。この名前にさせていただいて良かった点がありまして、「フライパンは重いですか？」という問い合わせがほとんどありません。また、この名前にしたことによって、色々な形で名前だけで取り上げていただいておりますので、何となくこういったものは大事かなというふうに思っております。販売累計枚数は 50,000 枚を超えて、現在はご注文をいただいてから発送まで約 5 ヶ月待ちの商品になっております。

なぜ、フライパンの開発をしたかと言いますと、製造業は下請けの割合が非常に多く、なかなか思うように利益が上がらないという部分がありました。その中で、現会長の父が若い時にアルミ溶解資材の製造という自社製品を作りました。これが高度経済成長の波に乗って、弊社の基盤ができたのではないのかなというふうに思います。そんな自社製品を持っていたので、私が会社に入った時にこれがどれくらい会社の力になっているかというのを重々わかっておりまして、父に負けたくなかったので、父が作った自社製品に代わるものを何か作れないかということが 1 つのきっかけかなと思います。鋳物の熱伝導の良さや蓄熱温度の高さを活かせるものはないかということで、自社の良い所と悪い所を分析しました。そして、何を作ったら良いかということは何度も協議を重ねた中で、調理器具が良いのではということになり、その中でも使用頻度の高いフライパンを作ろうということで、自社の技術を活かして、食の安全性と味にこだわったフライパンを開発することになりました。ただフライパンを作れば良い訳ではなくて、私の考える中では世の中に無いものを作って、皆さんに喜んでもらいたいという思いがありました。外でお肉を食べると美味しいですが、自宅で焼いたお肉は美味しくないという経験が皆さんもあると思いますけれども、これは調理器具で大きな差が出てくるのではないかと何となく気付いてきていたので、開発の最初の段階で「お肉が美味しく焼ける調理器具」、「お肉が美味しく焼けるフライパン」というキーワードで、インターネットで調べました。しかし、1 件も出てこなかったのが、お肉に特化したフライパンの開発を進めました。ただ「お肉が美味しく焼けるフライパン」ではなくて、子供を育てるように一生使っていただきたいという思いから、無塗装で仕上げようということになりました。開発に際して、悩ましかったのは鋳物ならではの「重さ」の問題でした。同じ 20cm のフライパンでも市販のものは 200~400g ですが、弊社のものは 1.2kg あります。ですが、薄く・軽くしようとするれば、特長である熱伝導の良さや蓄熱温度の高さが発揮できなくなってしまいますので、「お肉が美味しく焼けるフライパン」を実現するために「重さ」をそのま

ま鋳物の良さとして認めることにしました。

最初は 20cm のフライパンだけでしたが、現在は「おもいのフライパン 24cm (深型)」、「おもいのフライパン 26cm」、「おもいの鉄板 28cm」、「ドアラのおもいのフライパン 20cm」ということで、ラインナップも増えてきました。そして、先日、新たに「おもいのマルチパン」という従来品である 20cm のフライパンと合わせて使えるマルチパンの先行予約を始めました。フライパンとしてはもちろん、鍋としても使えます。また、20cm のフライパンを蓋がわりにダッチオーブンとしても使えるので、自宅だけでなくアウトドアシーンにも使える調理器具の革命的アイテムとなっております。

私共みたいな町工場では資金力が無いので、新しい取り組みだからと言って、設備投資をするのではなくて、できるだけ最初は無理をせず、お金をかけずに頭を使って進めることが大事ではないのかなということを経験から思いました。今後も一生懸命頑張りたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

令和3年6月23日(水) 定款第7条第1節(d)による休会

令和3年6月30日(水) 定款第7条第1節(d)による休会

令和3年7月7日(水) クラブフォーラム「役員挨拶」